

そうも呼ばれていた。

これを運び出すのに、昔は殆ど人の背に背負うか、天秤で肩にかついでいたから、大川の渡しに障害となり、各所に船渡し場のようなものがあった。大八車ができ、架橋の必要にせまられ、現在は鉄橋を除いては、蟹川橋と高田橋の二カ所に限定されたが、リヤカーは、やがてオート三輪車へと発達して、共同出荷・出荷集配などの組織と相待って、蔬菜の搬出を容易にしている。

市場は若松のみにとどまらず、坂下町・高田町・本郷町へも出荷された。特に坂下町は奥会津への門戸で、溪口市場集落の特色を持ち、節により種類によっては、若松よりも値が高いこともあって、下荒井より以北の村々では、その方面への出荷も目立った。現在は郡山方面や、さらに東京方面へも、交通・運輸機関の発達と共に進出しているものがある。

2、蔬菜の種類と速成栽培、扇状地の表土の厚さ、土性などにもより、各村々に、いくらか蔬菜栽培の特色がみえる。中里・石原方面に里芋、麻生方面にねぎ、瓜、西瓜などは北会津西半の村々、これは専ら出荷距離、即ち若松に朝早く運んで帰り、その日の予定の仕事にかかり得る時間をみこんで、種類を選ぶなどのこともあったようである。

特にねぎの栽培は、冬季の出荷にも適するので、多く栽培されている。その一因として、扇状地末端の清水の湧出が、冬の洗滌に、水の温度が高いなどの好条件がつくようである。

つぎに、古くから蔬菜は、はしり、初物といって、少しでも季節に先がけることが、値が高く有利であると考えられ、その方面の苦勞を重ねてきたようである。そのためには、昔は温床と、苗床における移植を丁寧やうして、所謂集約農業の高度な園芸栽培的なものを、早くから行なってきた地域である。